

# 新型コロナ対策に関する緊急施策、市議会総務文教常任委員会で質問



7月16日の臨時市議会で、国から追加交付された新型コロナ臨時交付金などについて、9月議会をまたずに先行実施する事業が審議されました。村上かずしげ議員は、それぞれの事業について課題となっている点の改善を求めて、積極的に議論しました。その内容をご紹介します。

## ① 交付金を基金に戻すことは考えない

国から2次分として23億円が交付されますが、一部を基金に積むのでは？という心配がありました。1次分の交付金前に実施した「事業用の上下水道料金の2か月免除」「休業補償の協力金」で、財政調整基金を6億円取り崩し、基金が減っていたからです。



村上議員は「新型コロナ対策は今回の23億円でも足りない。基金に戻さず、全額を新たな施策に使い。」と質問。財政部長は、「基金に戻すことはしない」と答弁。全額が新しい対策に使われることになりました。

## ② 学校の網戸はいつ設置されるの？

教室に「網戸」がつくことになりましたが、契約上は工事終了は11月。各議員から、一刻も早い設置を求める声が相次ぎました。

村上議員は、「網戸設置は当然だが、これは学校関係者、教員組合から何年も前から要求されていたものではないのか。」と指摘。市がこうした要望にしっかりと応えていけば、今頃、網戸問題を議論することもなかったのです。

暑さの厳しい阿寒地区について、扇風機の設置を質問、「小学校は事業者有志から、中学校はPTAから扇風機が寄贈される。」ことがわかりました。

## ③ 避難所の感染防止は不十分

品と段ボールのパーテーションが備蓄されることになりました。しかし18か所で3千3百人分あまり。「阿寒川の洪水を想定して大楽毛、星が浦などが中心だが、大津波、土砂崩れも心配される。今回を第一弾として、全市的な備蓄を」と提案。市も、避難所の見直し等にあわせて、さらなる備蓄の拡大を考えることになりました。



避難所にマスク、体温計、消毒液、使い捨て手袋などの感染防止用品

## ④ ホール使用料の半額補助

市民文化会館の大小のホール、まなぼつとの大ホールについて、定積の半分の入場制限になっています。そこで使用料の半額を補助することになりました。村上議員は、予算額の積算根拠を詳しく質問。そのうえで仮に予算額が底をついても、来年2月末までは補助を続けるのかと質問、理事者から「予算にかかわらず2月末までは補助を続ける」という答弁がありました。

